

1 はじめに

校長 小河原 健一

本校がいわき市の仮設校舎での教育活動を開始してから5年目となる。

当初、様々な困難に直面しながらストレスを抱えた児童生徒に対して、「分かる授業とは」「一人一人に寄り添う支援とは」をテーマとして研修がスタートした。それから数年、地域や関係機関の皆様の支援をいただきながら、本校の児童生徒は徐々に落ち着きを取り戻し、現在では明るく元気に日々の学習に取り組むことができている。

また、今年4月には中学部と高等部を四倉高等学校に移転する予定である。

そこで、「校舎が離れても、全職員が全児童生徒のことをよく理解している学校」を目指して系統性、連携、共通理解などがますます強固なものになって行くよう今年度の研修テーマは、「考え、できる・表現する」力を育む授業づくり～「つなげる」体制づくりの工夫とした。

本研修を進めるに当たり、研修を支え、本校の教育活動にとって不可欠なものが毎日の「振り返り」である。児童生徒一人一人に対する障がいの特性、学習の課題、指導方針等を教師集団が共有する有効な手段であることはこれまでの実践で証明されており、我が校の看板の一つとなっている。

私が学生だった頃、指導していただいた先生から研究について指導された印象深い言葉がある。それは、「研究論文を読むときには、批判的に読みなさい。」ということだった。今、その言葉をもう一度かみしめてみれば、論文を肯定的に読むのではなく批判的に読むことによって、物事をより深く考えようとしたり、また、他の手立てはないか、自分だったらどのように展開するのかなど、より広い視野で捉えることにもつながるということなのだと思い至った。

この研修収録を手にした皆様には、ぜひ、深く、広く、時には疑いながらお読みいただければ幸いである。そうすることによって、障がいのある子どもたちの成長につながるより良い支援の在り方、考え方につなげていってほしいと心から願っている。

